

子どもたちが
自ら動き出す

授業を、
今日から



キュービナを活用した
自律的な学びの実践事例集

はじめに・目次

本資料は、AI型教材「キュビナ」を活用した**自律的な学びの実践事例**を紹介するものです。これらの授業では、児童・生徒が**自分の理解度に応じて学習の進め方を調整**しながら、主体的に学習を進めていくことを大切にしています。

近年、学習内容の高度化・多様化が進む中で、学校教育では「何を教えるか」だけでなく、「**どのように学ぶか**」「**学び続ける力をどう育てるか**」がより重視されるようになっていきます。一方で、一斉指導を中心とした授業構造では、理解の速さやつまずき方の違いに対応しきれず、主体的な学びを引き出しにくいという課題があります。また、探究的な学びを取り入れたくても、授業時間や指導内容の制約が壁になることも少なくありません。

そこで本資料では、キュビナを使って基礎的な学習を効率よく進めたり、子どもの学習状況を把握しやすくしたりしながら、授業の中に「**児童・生徒が自分で選び、考える場面**」を取り入れた実践を紹介します。どの実践も、児童・生徒に任せきりにするのではなく、教師が授業の流れや環境を整え、必要に応じて声をかけたり支援したりすることを前提としています。

ここで紹介する考え方や授業の工夫は、特定の教科や单元だけでなく、さまざまな授業で活用できます。本資料が、日々の授業づくりを考える際のヒントになれば幸いです。

はじめに・目次	P.02
---------	------

自律的な学びの全体像	P.03
------------	------

授業改善事例

町田市立藤の台小学校 / 小6国語	P.04
-------------------	------

東大和市立第四小学校 / 小6社会	P.06
-------------------	------

奈良市立済美小学校 / 小5理科	P.08
------------------	------

町田市立真光寺中学校 / 中3数学	P.10
-------------------	------

渋谷区立松濤中学校 / 中1国語	P.12
------------------	------

Q&A	P.14
-----	------

お役立ち資料	P.15
--------	------

自律的な学びの全体像

なぜ重要か？ どう学ぶか？ 先生はどう関わるか？

Why 自律的な学びがなぜ重要なのか？

学校現場の課題

- 01 学ぶ内容が増え、理解の段階やつまずき方が多様化している
- 02 全ての児童・生徒を同じペースで学習させることが困難
- 03 教員による個別の指示・管理には限界がある

すべての学習を一斉指導で
支えることに限界が訪れつつある

社会の変化

- 01 正解が最初から用意されていない場面の増加
- 02 状況に応じて考え直し、学び直すことが必要
- 03 卒業後も学び続けることが前提の社会へ

「何を知っているか」よりも
「どう学び続けられるか」が重視される

従来型の一斉指導から
自律型学習への転換が不可欠

How 自律的な学びのプロセス

01 見通し

何をできるようになりたいか？（目標）
どんなやり方で進めるか？（計画）

02 実行

目標に対して理解度や進み具合は？（確認）
今のやり方をどう変えるか？（調整）

03 振り返り

目標に対してどこまでできたか？（評価）
なぜその結果になったのか？（分析）
次の学習で何を変えるか？（改善）

試行錯誤のサイクルを回し、
学び方そのものを身につける

学習者自身がサイクルを回す

Role 自律的な学びにおける先生の役割

01 環境の設計

見通しを持たせ、自ら進めるための土台を用意する

例 単元目標の提示／複数の学習手段(教科書・キュビナ・プリント等)の準備／振り返りの仕組み化

02 学習の見取り

一人ひとりの状況を把握し、支援の材料を得る

例 データ（正答率・進度）の確認／目標・振り返り記述の確認／机間指導での観察

03 生徒への支援

プロセスを調整・深化させ、質の高い学びへ導く

例 見取りに基づく個別最適な支援／状況に応じた「見守り・問いかけ・伴走」の使い分け

自律的な学び = 放任ではない
設計 → 見取り → 支援を
通して学習を支える

学び方も作品も、“自分の読み”で切りひらく — “技”を見つける国語の時間 —



町田市立藤の台小学校
深澤 友美 先生



BEFORE

一斉に同じ学び方で授業が進み、理解の差が見えにくかった。
また、児童は指示待ちになりやすかった。

AFTER

児童が「誰と・どう学ぶか」を選び、必要に応じて読み方を変えながら学べるようにした。
教師は学習状況を見取り、必要な児童に支援ができるようになった。



単元の流れ

単元のゴール

筆者の技(文章を分かりやすく伝える工夫)を見つけよう。

時数	活動内容
導入 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 教師が単元全体の学習課題と、これからの活動の全体像を提示する 教師がこれまで行ってきた学び方を一つ一つ挙げ、様々な学び方があることを児童に意識付ける
自律的な学び (1時間×4サイクル)	<ul style="list-style-type: none"> 児童は学習課題に向かって、自分の理解状況を確認めながら学びを進める 児童は必要に応じて、学び方や取り組む内容を自身で調整する
まとめ (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 教師が各児童が見つけた筆者の工夫を聞き取り、分類してまとめる 教師が各児童の学び方の違いをクラス全体に共有し、児童が次の学習の参考にできるようにする

1時間のサイクル

	児童の動き	教師の動き
全員共通	5分 学習の見通し <ul style="list-style-type: none"> 学習課題を確認し、「誰と/どのように」学ぶかを決める 学習計画表に自分で立てた計画を記入する 	<ul style="list-style-type: none"> 学び方の選択肢を示し、それぞれの特徴を簡単に伝える 計画は固定せず、学習の途中で見直してよいことを伝える
個別選択	35分 自律的な学び <ul style="list-style-type: none"> 学習課題に必要な知識や考え方を、選んだ方法でインプットする(教科書本文を読む/先生の解説を聞くなど) キュビナで文章を正しく読んでいるかを確認する 課題解決に必要なだと判断した場合は、他の読み物や資料を選んで読む 	<ul style="list-style-type: none"> 児童の学習状況を見取りながら、計画通りに進められているかを確認する 立ち止まっている子や、進め方に迷っている子には声をかけ、学び方の選択を支援する 必要に応じて一緒に課題に取り組む、次に何をするかを児童自身が決められるよう促す
全員共通	5分 振り返り <ul style="list-style-type: none"> 振り返りシートに、見つけた筆者の技と自らの学び方を記入する 進捗や気づきをクラス全体に共有する 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の取り組み内容や進捗を電子黒板に表示し、他者の進め方を参考にできるようにする 学習計画表とノートを回収し、次の授業までにコメントを記入する

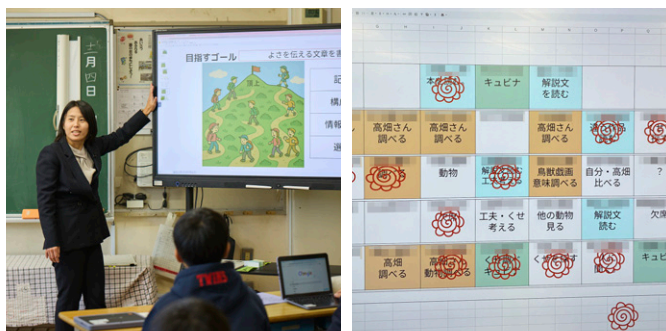
学び方も作品も、“自分の読み”で切りひらく — “技”を見つける国語の時間 —

授業改善のポイント

POINT 01 単元の“内容”を身につけるだけでなく、“学び方”を身につける

読解の内容理解と同時に、「自分に合う学び方を選び、必要に応じて変える」力を育てるために、以下を行った。

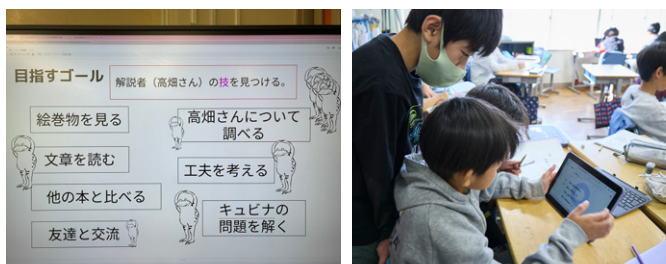
- 学び方とその特徴を選択肢として示し、児童が選べるようにした。各児童の学び方を電子黒板に映し、他の児童の学び方を参考にできるようにした。
- つまずく児童には最初の一步を教師と一緒に伴走した。(例:最初の15分だけ教師と本文を読み、以降は自分で学び方を選択する)



POINT 02 振り返りを通して、学び方を調整する力を育てる

自分の学び方を見直し、次の行動につなげる力を育てるために、以下を行った。

- 振り返りシートには、「誰と」「どのように」学んだかを記入することで、自分の学び方を言語化できるようにした
- 単元の途中で中間振り返りを行い、これまで選んできた学び方がゴールに向かって有効かを俯瞰して考えられるようにした。
- 振り返りシートは毎時間回収して学習状況を把握し、学習が停滞している場合には、すぐに支援ができるようにした。



キュビナの活用ポイント

！ 選択肢の一つとして

キュビナは、学び方の選択肢の一つとして位置づけ、児童が自分の判断で必要なタイミングに取り組めるようにした。

！ 土台の補強として

本文理解の土台を補強するために、読み取りの要点整理や教科書本文中の語句の意味確認に活用するように促した。

授業者からのアドバイス

学習内容だけでなく、学び方を身につけることを重視しています。一方で、これには児童の失敗を一定程度許容する覚悟も必要です。実際に、一時的に学習が停滞した児童もいましたが、私からヒントを聞き、学び方を選び直して先に進んでいきました。このように失敗は新しい学び方を得る機会だと捉えることが重要だと思います。

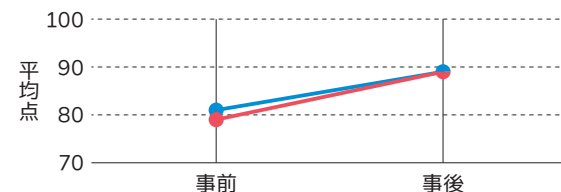


実際に使用した
振り返りシート

効果・成果

学力の変化

日常的に実施しているカラーテストの結果を学力指標として用い、実証の事前・事後で同一児童集団の平均正答率を比較した。



知識・技能

+8.75

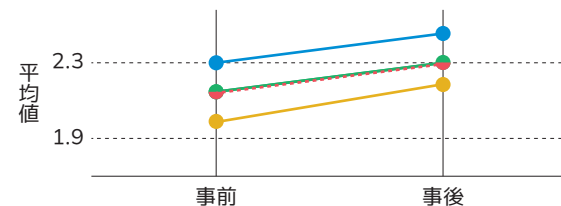
思考・判断・表現

+6.37

※集計対象:事前・事後ともに32人

児童の意識変化

実証の事前・事後に同一内容のアンケート調査(4段階評価[0-3点])を実施し、集団全体の平均値を比較した。



自分に合った学び方

+0.18

授業の内容が分かる

+0.24

将来と学びのつながり

+0.18

計画や振り返りは役に立つ

+0.09

※集計対象:事前・事後ともに33人

※統計的に有意な差は確認されていないので、本結果は参考値となります。

計画と振り返りで“自分の学び”が更新される社会の時間 — KPTで次の一歩が見つかる —



東大和市立第四小学校
大庭 啓史 先生



BEFORE

児童は1 時間ごとの授業では見通しを持って学んでいたが、
単元全体を見通して学ぶことがあまり出来ていなかった

AFTER

児童自身で単元全体を見通した上で、学習の進め方を考えながら取り組めるようになった。
振り返りを通して学び方を自分で見直し、次の学習に生かすことができるようになった。



単元の流れ

単元のゴール	全国統一に向けて 3人の武将が果たした役割を理解しよう。
時数	活動内容
導入 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師が単元の基礎的な知識を説明する ● 児童が単元全体の学習計画を立てる
自律的な学び (1時間×4サイクル)	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童は複数の課題から取り組む内容を選ぶ ● 児童は学習計画に沿って、自分の理解状況を確認しながら学びを進める ● 児童は必要に応じて、学び方や取り組む内容を自身で調整する
探究的な学習 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童はノート見開き 1 ページに学習したことをまとめ、学習課題に答える

1時間のサイクル

	児童の動き	教師の動き
全員共通 5分	キュビナで演習 <ul style="list-style-type: none"> ● 前回の復習や単元内容の予習など、個人の活動に合わせて必要な箇所を学習する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 単元内の教科書準拠の問題の中から、自分の学習状況に適した問題を解くように声かけする
個別選択 35分	自律的な学び <ul style="list-style-type: none"> ● 学習課題の解決に必要な知識を、自分の選択した方法(教科書/先生の解説を聞く/資料集/NHKforschool / キュビナ)でインプットする ● 複数人のグループで学習するか、一人で進めるか選択する ● 自分のタイミングで確認プリントを解き、知識の定着を確認する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 児童が単元の始めに立てた計画に対する進捗を机間指導しながら確認する ● 立ち止まっている子や、進め方に迷っている子には声をかけ、先生と一緒に個別に伴走しながら支援する
全員共通 5分	振り返り <ul style="list-style-type: none"> ● 「課題の進み具合/学び方の振り返り」を学習計画表(ロイロノート)に記入する 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習計画表の児童の記述を確認する ● 個別にコメント・評価を行い、フィードバックする

計画と振り返りで“自分の学び”が更新される社会の時間 — KPTで次の一歩が見つかる —

授業者からのアドバイス

子供たちには「どう学ぶか」を問い続けてきました。はじめは友達と調べることを楽しんでいただけでしたが、次第に誰とどうやって勉強するか子どもたち同士で話し合う声が聞こえ、実践する姿が見られるようになってきました。「自分の学びを自分で決める。」この経験はきっと子供たちの自信と成長につながると思っています。



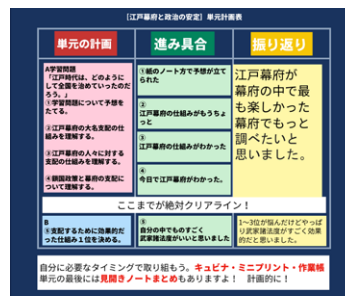
実際に使用した
学習計画表

授業改善のポイント

POINT 01 単元全体を見通し、要点を押さえながら自己調整する

児童が単元全体を見通しながら学習を進め、長期的な視点で自分の学びを調整できるようにするため、以下を行った。

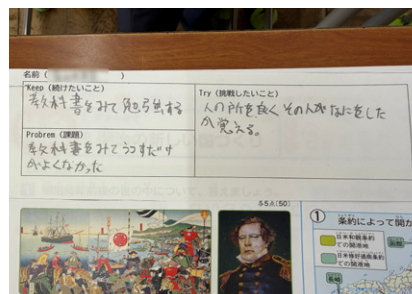
- 単元全体の学習課題や時間数を単元のはじめに示し、長期的な見通しをもてるようにした。
- 単元の冒頭で、必ず押さえたいポイントをミニレッスン形式で共有した。
- 教科書や資料集を基軸に、必要に応じてNHKforSchoolやキュビナ、ロイロノートなど複数のツールを組み合わせで学習できるようにした。



POINT 02 KPT法で学びの振り返りを実施

児童が自分の学び方を言語化し、次の学習に生かせるようにするため、以下を行った。

- 普段から学習計画表に学びの過程を記録することで、テスト返却後の振り返りの際にこれまでの学びを思い出せるようにした。
- テスト返却後に、これまでの記録を手がかりに、Keep：続けたこと、Problem：課題、Try：挑戦することを整理する振り返り（KPT 法）を行った。
- 振り返った内容をクラスで共有し、次の単元での行動につなげられるようにした。



キュビナの活用ポイント

選択肢の一つとして

学習の開始時に取り組む活動として位置づけ、児童が自ら基本的な知識の復習やこれから学ぶ内容の予習に取り組めるようにした。

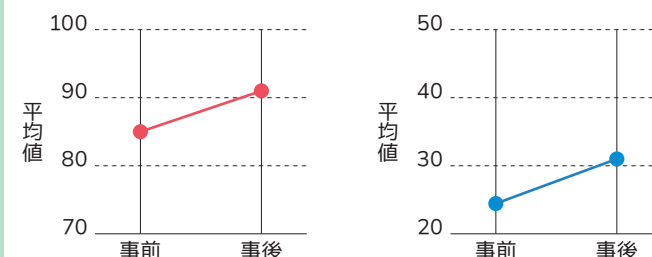
／ 学びの入口として

児童に学習方法の選択を委ねる際、学習の選択肢の1つとしてキュビナを提示した。

效果·成果

学力の変化

日常的に実施しているカラーテストの結果を学力指標として用い、
実証の事前・事後で同一児童集団の平均正答率を比較した。



知識・技能(100点満点)

+6.1

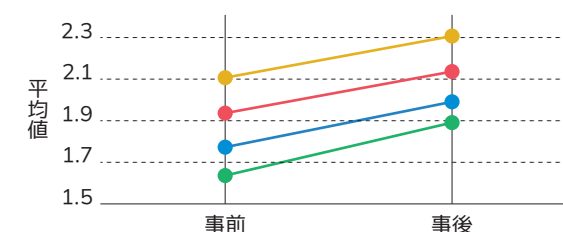
思考·判断·表现(50点满点)

+6.7

※集計対象：事前・事後ともに27人

児童の意識変化

実証の事前・事後に同一内容のアンケート調査（４段階評価〔0-3点〕）を実施し、集団全体の平均値を比較した。



自分に合った学び方

+0.28

授業の内容が分かる

+0.35

将来と学びのつながり

+0.43

計画や振り返りは役に立つ

+0.31

※集計対象:事前アンケート21人、事後アンケート29人

※統計的に有意な差は確認されていないので、本結果は参考値となります。

児童が夢中に、自律的に学習しながら 資質・能力を身につける理科の授業



奈良市立済美小学校
中川 晃希 先生



BEFORE

児童は学習に対して「どのように取り組むか」を自分で判断する場面が少なかった。
教師は、児童の学習への主体的な関与や理解状況を把握しづらかった。

AFTER

学習への取り組み方を児童に委ねたことで、児童は主体的に学習に取り組むようになった。
確認テストなどで学習状況を可視化したことで、教師は適切な支援ができるようになった。



単元の流れ

単元のゴール	メトロノーム(振り子)を曲のテンポに合わせて動かせるようになろう。
時数	活動内容
事前知識のインプット (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 教師が単元の学習課題を示す 児童は単元の学習課題に対する取り組み方を考える 教師が実験の前提として必要な概念や知識を説明し、理解度を確認する
自律的な学び (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> 児童は学習課題の解決に向けて、グループで実験方法を検討・実施 児童は、単元の学習内容に対する自分の理解に応じて、学習の調整を行う
探究的な学習 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> 単元の内容について、自ら立てた問いを調べ、まとめる まとめた内容を児童同士で共有する

4時間の流れ

	児童の動き	教師の動き
全員共通 5分	学習の見通し <ul style="list-style-type: none"> 学習課題を確認し、どのように取り組むかを振り返りシートに記入する 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りシートの児童の記述を確認する 数名の児童に発表を促し、その場で短くフィードバックする
全員共通 40分	事前知識のインプット <ul style="list-style-type: none"> 実験の前提として振り子の要素や器具の扱い方などをインプットする 該当範囲のキュビナの問題を解く 	<ul style="list-style-type: none"> 実験に必要な最低限の概念・知識を簡潔に説明する キュビナの結果を見取り、必要に応じて全体への補足・個別支援を行う
個別選択 130分	自律的な学び <ul style="list-style-type: none"> 学習課題の解決に向けて、実験方法を自ら考え、実施する実験の中で登場した知識・技能を教科書やキュビナなどを用いて定着を図る 確認テストを任意のタイミングで受験し、自分の理解に応じて、学習のやり方を決める 	<ul style="list-style-type: none"> 机間指導で、実験の取り組み方に問題がある場合、問いかけを行い、児童が問題に気付けるように促す キュビナマネージャーや机間指導を通して、児童一人ひとりの理解度や学習状況を見取る 見取りの結果を元に、必要に応じて支援を行う
全員共通 5分	振り返り <p>振り返りシートに以下を記入する。</p> <ul style="list-style-type: none"> うまくいったこと/いかなかったこと その理由 次はどう活かすか 	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りシートの児童の記述を確認する 数名の児童に発表を促し、その場で短くフィードバックする

児童が夢中に、自律的に学習しながら 資質・能力を身につける理科の授業

授業者からのアドバイス

- 授業スタイルを一度に全て変えると先生の負担が大きく、児童も混乱する可能性があります。できるところから段階的に変えていくのがおすすめです。
- 授業準備で単元末の探究テーマ案を作成する際、生成AIを壁打ち相手として活用しました。生成AIは、教師のアイデアを広げ、思考を深めるための有効なツールの一つとなります。



実際に使用した
振り返りシート

授業改善のポイント

POINT 01 一斉指導で土台をそろえた上で、児童に委ねる

児童が学習すべき内容にきちんと向かいながら、実験方法や学び方を自分で判断して学習を進められるようにするため、以下を行った。

- 実験の前に、最低限必要な知識や技能について、一斉指導で共通理解をそろえた。(振り子の要素、器具の扱い方、安全面など)
- 実験方法の検討や条件設定はグループに委ね、教師は巡回しながら、必要に応じて確認や方向づけを行った。
- 知識の定着や理解の深まりについては、児童が自分の方法やペースで進められるようにした。



※「もののとけ方」の単元の授業の様子

POINT 02 到達すべき基準(確認テスト)を示して委ねる

児童が「次に何を学ぶか」「どこを調整するか」を自分で判断できるようにするため、以下を行った。

- 確認テスト(キュビナのワークブック)を受けることは全員共通とし、児童全員が到達すべき基準として示した(評価基準のB基準にあたる)。
- 基準に達することを目標に、児童が自分に適した学習方法を選び、確認テストの結果を自己調整の材料に自らの学習を見直せる、自律的な学びの時間を設けた。



・確認テスト(ワークブック)の結果を教師が確認する画面

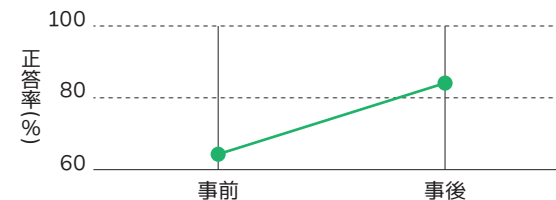
キュビナの活用ポイント

- ！ 土台作りとして** 実験に最低限必要な知識・技能の共通理解を揃えるため、一斉指導後にキュビナで確認した。
- ！ 確認テストとして** 確認テストを学習状況を把握する手段として活用し、児童がその結果をもとに学習内容を自己調整できるようにした。
- ！ 学習の見取りとして** 教師は学習データをもとに、児童一人ひとりの理解度やつまずきを見取り、必要に応じて個別に支援を行った。

効果・成果

知識・技能の定着における変容

実証の事前・事後に同一児童を対象としたテスト実施し、集団全体の平均正答率を比較した。

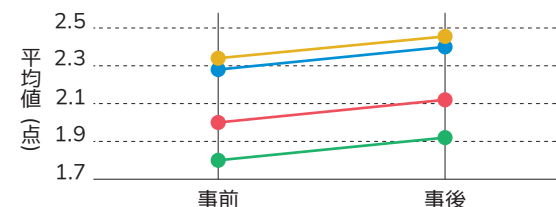


正答率の変化
+18.3pt

※事前・事後テストは、各設問の全国正答率を基に、全体の難易度が概ね揃うよう構成している。
※集計対象:事前・事後ともに70人

児童の意識変化

実証の事前・事後に同一内容のアンケート調査(4段階評価[0-3点])を実施し、集団全体の平均値を比較した。



自分に合った学び方 +0.07
授業の内容が分かる +0.09
将来と学びのつながり +0.14
計画や振り返りは役に立つ +0.12

※集計対象:事前アンケート74人、事後アンケート64人
※統計的に有意な差は確認されていないので、本結果は参考値となります。

自分の目標に向かって、 自律的に学ぶ数学の授業



町田市立真光寺中学校
影山 泰明 先生



BEFORE

生徒が自分の理解度や学習方法を振り返り、調整する機会が少なかった。
教師は生徒一人ひとりの理解状況を把握しづらく、全体の学力の底上げが課題となっていた。

AFTER

生徒自身で目標・計画・振り返りを行い、自らの理解に応じて学びを調整できるようになった。
教師は学習状況が可視化された情報をもとに、必要に応じた支援を行えるようになった。



単元の流れ

単元のゴール 相似の意味やきまりを理解し、図形の性質や比の関係を
使って問題を考えたり、生活や学習に生かしたりする。

時数	活動内容
導入 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師が単元の導入となる説明を行い、学習内容の概要を伝える ● 教師が単元全体の学習の見通しを示す ● 生徒が単元を通した個人目標を設定する
自律的な学び (2時間×7サイクル)	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒は基礎的な知識や考え方をインプットする ● 生徒が自分の学習計画をもとに問題演習に取り組む ● 生徒は自分の理解度に応じて、学習内容や進め方を調整する ● (節単位で) 生徒が思考・判断・表現に関する発展課題に取り組む
探究的な学習 (1時間)	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒が自分の理解度に応じて、単元で不足している学習を行う ● 生徒が単元全体を振り返り、次の学びに繋げる

2時間のサイクル

	生徒の動き	教師の動き
全員共通 5分	学習の見通し ● 「何を/いつまでに/どこまでやるか」という項単位の計画を学習計画表に記入する	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習計画表の生徒の記述を確認する ● 計画の記述の具体性に応じて個別に支援し、具体化を促す
	自律的なインプット ● 教師の講義/教科書/キュビナなどから、生徒が自ら学習方法を選択(学習済であればスキップ可)	● 教師の講義での説明は、公式や考え方の要点のみに絞り、必要以上の説明をせず、生徒個々の学習時間を確保する
個別選択 90分	自律的なアウトプット <ul style="list-style-type: none"> ● 教科書/キュビナ/ワークなどから生徒が自ら演習方法を選択 ● キュビナで配信された確認テストを生徒の任意のタイミングで受ける ● 必要に応じてやり直ししたり、学習方法を調整したりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● キュビナマネージャーや学習計画表、机間指導を通して、児童一人ひとりの理解度や学習状況を見取る ● 見取りの結果を元に、必要に応じて支援を行う ● 確認テストの正答率が目標に達していない生徒には、学習方法や演習内容の見直しを促す
全員共通 5分	振り返り 学習計画表に以下を記入する。 <ul style="list-style-type: none"> ● うまくいったこと/いかなかったこと ● その理由 ● 次にどう活かすか 	<ul style="list-style-type: none"> ● 学習計画表の生徒の記述を確認する ● 計画の記述の具体性に応じて個別に支援し、具体化を促す

自分の目標に向かって、 自律的に学ぶ数学の授業

授業者からのアドバイス

- 「見通し → 実行 → 振り返り」のサイクルを生徒へただ強いのではなく、生徒が一連の行動そのものに価値を感じ、自ら取り組むように働きかけ続けることが重要だと思います。
- いきなり完璧を目指す必要はないので、生徒の実態を把握した上で、できることからチャレンジしてみてください。



実際に使用した
学習計画表

授業改善のポイント

POINT 01 単元の目標と全体像を示し、プロセスを委ねる

生徒が自分の目標を意識しながら、学習の進め方を自分で判断できるようにするため、以下を行った。

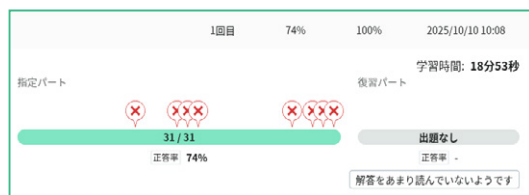
- 単元のめあてや到達目標（確認テスト70%以上）を単元の最初に全体で共有し、学習のゴールを明確にした。
- 単元の学習に必要な情報（対応する教科書のページ数やキュビナの範囲など）を学習計画表にあらかじめ示し、それを元に生徒が学習計画を立てられるようにした。
- インプット/アウトプットの方法や確認テストを受けるタイミングを、生徒が自分の理解状況に応じて選択できるようにした。



POINT 02 到達目標を明確に示し、学力保障と自律性を両立させる

生徒が自分の到達状況を把握し、安心して自分で学び方を調整できるようにするため、以下を行った。

- 確認テストを「到達すべき目標」として位置づけ、基準を明確にすることで、生徒が目標とする正答率を意識しながら学習を進められるようにした。
- 教師は確認テストの結果を、支援が必要な生徒を判断する材料として活用した。



確認テスト(ワークブック)の結果を教師が確認する画面

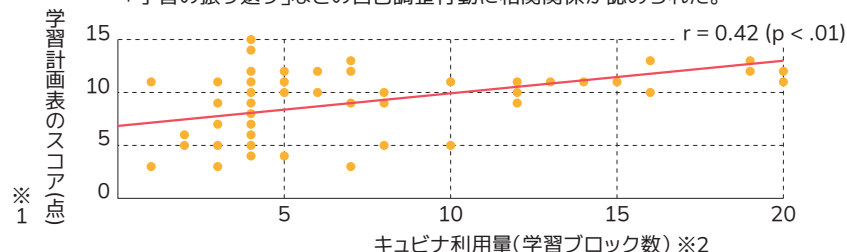
キュビナの活用ポイント

- ！ **選択肢の一つとして** —— 生徒に学習方法の選択を委ねる際、学習の選択肢の1つとしてキュビナを提示した。
- ！ **確認テストとして** —— ワークブックを確認テストとして活用し、生徒が結果をもとに学習内容を自己調整できるようにした。
- ！ **学習の見取りとして** —— 教師は学習データをもとに、生徒一人ひとりの理解度や進捗状況を見取り、個別支援に生かした。

効果・成果

キュビナの利用と自己調整行動の関係

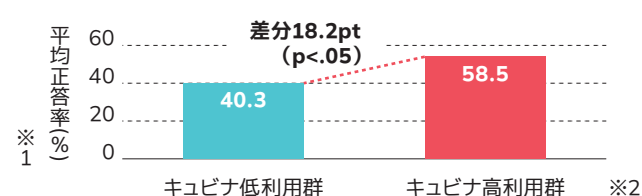
キュビナの利用量と、生徒の「目標設定」「計画的な取り組み」「学習の振り返り」などの自己調整行動に相関関係が認められた。



※1 学習計画表の目標・計画・振り返りの記述の質を一定の基準で評価し、自己調整行動の指標としてスコア化したもの
※2 当該範囲のキュビナの学習ブロックの修了数

キュビナの利用と学力の関係

キュビナの利用が多い生徒群の平均正答率の方が、キュビナの利用が少ない生徒群に比べて有意に高いことが分かった。



※1 当該範囲の学力を測定するテストの正答率

※2 キュビナにおける学習ブロックの修了数を基準に生徒を並べ、四分位に分割。このうち、修了数が多い上位25%(第1四分位)を高利用群、修了数が少ない下位25%(第4四分位)を低利用群とした。



考察 青山学院大学 教育人間科学部 教育学科 教授 北澤武 氏

分析の結果から、キュビナを用いた学習が、生徒の自己調整に関する学習行動(学習の見通し、計画的な取り組み、振り返り)および知識の習得との間に、ポジティブな関係を示す可能性が示唆されます。

古典の学びを今の生活につなげ、 資質・能力を自律的に身につける国語の授業



渋谷区立松濤中学校
常泉 恵正 先生



BEFORE

教師が生徒一人ひとりの理解度を把握することが難しかった。
生徒は定期テスト以外で自分の理解を確かめる機会が少なく、理解の不足に気づきにくかった。

AFTER

生徒が学習内容の理解を自分で確認できるようにし、理解に応じて学べるようになった。
教師は可視化された生徒の理解状況をもとに、生徒の状況に応じた支援を行えるようになった。



単元の流れ

単元のゴール 漢文を音読して故事成語の意味や由来について理解し、
故事成語を用いて文章を作ることができる。

時数	活動内容
知識獲得 (2時間)	<ul style="list-style-type: none"> ● 教師が漢文の読解に必要な基礎的な知識事項を説明する ● 生徒は確認テストから自分の理解度を確かめる ● 生徒は自身の理解状況から学び方を自分で選択する
知識活用 (3時間)	<ul style="list-style-type: none"> ● 生徒は獲得した知識を用いて、教科書本文(矛盾)を読み、内容を理解する ● 生徒が故事成語を自分で選び、その意味を踏まえた文章をつくる ● 生徒は作成した文章をクイズ形式でグループやクラスに共有し、相互評価を行う

5時間の流れ

	生徒の動き	教師の動き
全員共通	1時間 学習の見通し ● 「何に力を入れて取り組むか」目標設定し、プリントに記入する 知識のインプット ● 読解に必要な基礎的な知識事項を一斉指導で確認する	● プリントに記入例や選択肢も示し、目標設定に不慣れな生徒が取り組みやすいよう、支援を事前に準備しておく ● 説明は要点のみに絞り、必要以上の説明をせず、生徒個々の学習時間を確保する
	個別選択 1時間 自律的な学び ● キュビナで配信された確認テストを用いて、学習内容が身についているか確認する ● 結果をもとに、自分に必要な学習方法を選択して行う(教科書/キュビナ/プリント)	● キュビナマネージャーや机間指導を通して、生徒一人ひとりの理解度や学習状況を見取る ● 見取りの結果を元に、必要に応じて支援を行う ● 確認テストでクラスの正答率が低い問題に対しては全体に指導する
全員共通	3時間 知識活用 ● 学習した知識事項を活用しながら読解し、内容を理解する ● 故事成語を自ら選択し、その選択をもとに言語活動を行う	● 学習対象を自己決定する機会をつくる(漢文では故事成語を選択、古文では読解する場面を選択するなど) ● 他者との言語活動を促し、生徒の理解や考えが深まるようにする
	振り返り ● 「自己評価(A・B・C)/その理由/次にどう活かすか」を振り返り、プリントに記入する	● プリントの生徒の記述を確認する ● 個別にコメント・評価を行い、フィードバックする

古典の学びを今の生活につなげ、 資質・能力を自律的に身につける国語の授業

授業者からのアドバイス

- 生徒に学びを委ねることで、教員として学習の定着度に不安を覚えることもあるかもしれません。ですが、生徒を信頼して、入念な教材研究を行ったうえで、授業に臨むことで、これまで以上の学びのある授業を展開することができます。
- 一人ひとりの生徒の様々な気づきを大切にする授業にぜひチャレンジしてみてください！



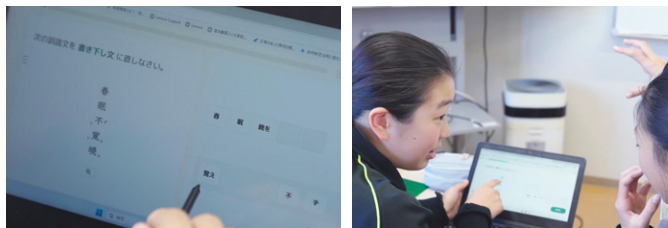
実際に使用した
振り返りシート

授業改善のポイント

POINT 01 理解状況を可視化し、生徒が次の学びを決める

生徒が自分の理解状況を把握し、「次に何を学ぶか」を自分で判断できるようにするため、以下を行った。

- キュビナのワークブックを確認テストとして利用し、生徒がその結果をもとに、自分に不足している学習内容をメタ認知し、次に何を学ぶかを自己決定できるようにした。
- 学び方の選択が難しい生徒に対しては、いくつかの学習ルートを示し、自分の状況に応じて判断できるよう支援した。



POINT 02 学習した知識を土台に、自己決定を通して活用につなげる

生徒が身につけた知識を使いながら、学習内容を自分のものとして活用できるようにするため、以下を行った。

- 学習した知識を土台にして、教科書本文を読解する。その後、生徒が学習対象を自己決定し、主体的に言語活動に取り組む機会を設定している。
- 自己決定と言語活動の例
 - ↳ 漢文：故事成語を自分で選択。それに合った文章を作成し、他者と共有・評価し合う。
 - ↳ 古文：竹取物語の読解する場面を自分で選択。読解した内容を他者と共有の上、学習課題に答える。



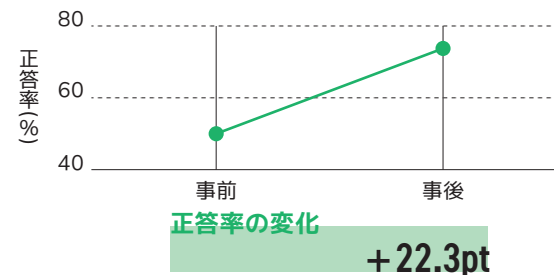
キュビナの活用ポイント

- ！ **選択肢の一つとして** ————— 生徒に学習方法の選択を委ねる際、学習の選択肢の1つとしてキュビナを提示した。
- ！ **確認テストとして** ————— ワークブックを確認テストとして活用し、生徒が結果をもとに学習内容を自己調整できるようにした。
- ！ **学習の見取りとして** ————— 教師は学習データをもとに、生徒一人ひとりの理解度や進捗状況を見取り、個別支援に生かした。

効果・成果

生徒のテスト結果の変化

実証の事前・事後に同一児童を対象としたテスト実施し、集団全体の平均正答率を比較した。

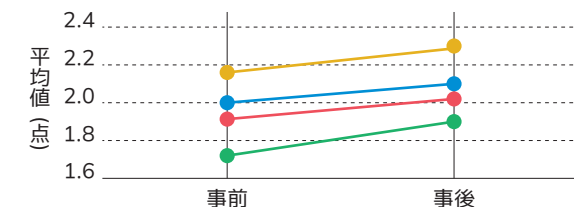


※集計対象:事前・事後ともに83人

※事前・事後テストは、各設問の全国正答率を基に、全体の難易度が概ね揃うよう構成している。

生徒の意識変化

実証の事前・事後に同一内容のアンケート調査(4段階評価[0-3点])を実施し、集団全体の平均値を比較した。



自分に合った学び方

+0.12

課題の難易度の適切さ

+0.14

国語の学習が好き

+0.21

授業内容が分かる

+0.19

※集計対象:事前アンケート88人、事後アンケート81人

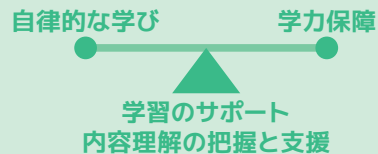
※統計的に有意な差は確認されていないので、本結果は参考値となります。

Q & A

Q 01 | 自律的に進めさせたいが、学力低下が心配です。

自律的な学びの中でも、学力の保障は欠かせません。

キュビナの個別最適な出題で個々の児童・生徒の学習をサポートしたり、確認テストなどを用いて内容理解を把握し教師が必要な支援を行うことで、自律的な学びと学力保障の両立を実現します。



Q 02 | そもそも児童・生徒が「何をどう進めればいいか」判断できないのでは？

最初から自律的に進められる児童・生徒は多くありません。段階を踏むことで、児童・生徒も先生も無理なく取り組みます。

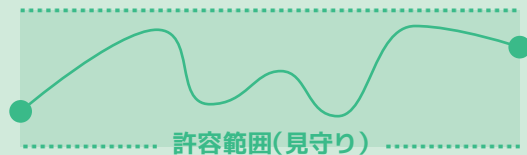
ステップ1: 授業内でさまざまな学び方を体験し、選択肢を知る

ステップ2: 授業の一部で学び方を自己決定する練習をする

ステップ3: 自己決定の範囲を徐々に広げ、先生は支援に注力する

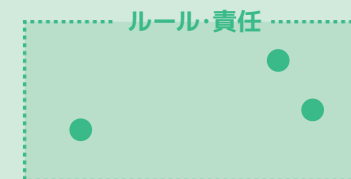
Q 03 | 児童・生徒が学びの選択をする中で、うまくいかないことがあった場合はどのようにすればよいのでしょうか？

失敗も成長の大切なプロセスです。どの程度の遅れを許容するか、事前に決めておきましょう。許容範囲内であれば振り返りを通じて見守り、大きな遅れにつながりそうな場合は軌道修正を支援します。



Q 04 | 児童・生徒に自己決定の機会を与えると、クラスの規律が乱れることが心配です。

「行動には責任が伴う」ことを児童・生徒と共有し、自由の範囲を明確にしましょう。「危険がないこと」「他者の学びを妨げないこと」などのルールを事前に確認し、定期的に振り返る機会を設けることが大切です。



お役立ち資料

単元を貫く問い作成プロンプト

生成AIを活用して、単元の学習内容を統合した問いを出力するためのプロンプトです。児童・生徒が「考えてみたい」と感じるような問いが複数提案されます。このような問いを単元の最初に示し、児童・生徒が自律的に動き始めるための原動力（動機づけ）として活用できます。プロンプトをコピー＆ペーストし、必要事項を入力するだけで使用できます。

**リンク先からプロンプトを
コピーして利用してください**

URL | https://docs.google.com/document/d/1f71Mm3Gt7u_LxEcKyzUL9yz2PJOY15sKhFGAPaDwx6Y/edit?usp=drive_link



ルーブリック表作成プロンプト

生成AIを活用して、入力した学習課題に対するルーブリックを作成するためのプロンプトです。「思考・判断・表現」の観点で、ABCの3段階で整理された評価表が出力されます。評価表を到達目標として児童・生徒に示すことで、メタ認知・自己調整の出発点として活用できます。プロンプトをコピー＆ペーストし、必要事項を入力するだけで使用できます。

**リンク先からプロンプトを
コピーして利用してください**

URL | https://docs.google.com/document/d/1g3mfdzfz0i6epJdBcJuSQDfbWEZUjy3bW22E-Su1Cgw/edit?usp=drive_link



学習計画表 テンプレート

児童・生徒が単元内で「何を・いつ・どのように学ぶか」を整理し、学習を見通しながら進めるための学習計画表のテンプレートです。「目標設定／計画立案／振り返り」を一体で可視化し、自己調整のプロセスを支援します。教師はこのスプレッドシートを活用し、学習状況の確認や自己調整スキルの見取りを行います。名簿を入力してボタンを押すだけで、クラス全員分のシートを一括で複製できる便利機能付き！

**リンク先のスプレッドシートを
コピーして利用してください**

URL | https://docs.google.com/spreadsheets/d/1-9w-oX85JaEmB7CxxlinKaE5ZV1hP_kM7gbWYxZJSYM/edit?usp=drive_link



振り返りシート テンプレート

児童・生徒が目標や振り返りを記録できる、振り返りシートのテンプレートです。「目標設定／学んだこと／自己評価／振り返り」を一体で可視化し、自己調整のプロセスを支援します。教師はこのスプレッドシートを活用し、学習状況の確認や自己調整スキルの見取りを行います。期間と曜日を入力するだけで、日付ごとの振り返りシートを一括で複製できる便利機能付き！

**リンク先のスプレッドシートを
コピーして利用してください**

URL | https://docs.google.com/spreadsheets/d/16L-XhF_UhCNY6c6iQ48THAWwqyY869alGkXA4RAWnpQ/edit?usp=drive_link

